

画像検査の「今」を見学

東京都正和シール日協同組合（田中祐理事長）は11月7日、技術委員会主催の技術研修会を実施。検査装置メーカーを訪れる研修に12人が参加した。

一行は品川駅に集合後、貸切バスで移動。横浜市港北区新羽町のシリウスピジョン㈱（辻谷潤一社長）を訪問した。

会議室で一同を迎えた辻谷社長は、歓迎のあいさつ



シリウスビジョンが保有する独自の画像検査技術群について説明を受け、実際に検査機を見学した

東京都正和シール印刷協同組合（田中祐理事長）は11月7日、技術委員会主催の技術研修会を実施。検査1966年の大平工業㈱に次いで会社紹介とシンポジウムの検査装置について講演を行った。

1966年の大平工業から始まり87年にナビタフにて講演を行った。

「㈱へ社名を変更
2011年に画像検査装置のナビタ
スピジョンソリューションズを設立して21年から現社名
と、約60年の沿革を解説。
販売台数は累計25000台
を超え、間もなく3000台
台に到達する」と報告した。

技術研修会実施

合わせると異物はブルーで
れ、3に合わせれば色ズ
が検出される。これをう
く許容し条件を両立させ
独自機能が現場に支持さ
た「など」独創性を説いた
また、関連会社の㈱U
i ARTSから取締役CG
Oの矢納正浩氏が「A-I
刷検査」について解説した
印刷物の検査はルーチ
ベースの画像検査が主で
マスター画像と撮像

避して許容する」と説明した。色ズレについても「例えばCとKが多少ずれて印刷された場合、コントラスト

最後癡ながら市場に支
され急成長を果たした独自
技術の一つとして、同氏
検査工程の過検知を回避
するソリューションを紹介
「独自の伸縮補正技術
位置合わせアルゴリズム」
開発により、印刷物が物
的に伸び縮みしたり位置

合わせると異物はブルーで
れ、3に合わせれば色ズ
が検出される。これをう
く許容し条件を両立させ
独自機能が現場に支持さ
た「など」独創性を説いた
また、関連会社の㈱U
i ARTSから取締役CG
Oの矢納正浩氏が「A-I
刷検査」について解説した
印刷物の検査はルーチ
ベースの画像検査が主で
マスター画像と撮像

以自例し回が理のや。すは自持

た画像を比較。ルールに沿って欠陥を検知する場所で各社は独自のアルゴリズムで過検知の抑制を図る。「過検知をゼロにすること」は極めて困難。作業員が一つ一つ検査結果を確認して本当に不良品か判断する

基面もひとくち。矢納氏は「AI印刷」とは、従来のルールベースの画像検査はそのままAIに置き換えるといい。ジレンマを指摘する。AIの目的の判断がなくしては、検査機を入れながら結果の判断ができない。

つも断を活用「ス」検査いた。局人いな
の」と説明。従来のベースでは過検知しても、AIで過検知を引きるとし「検査設定くしても作業効率がない」有効性を詳説
講演後はショーリーへ。高速機から車上

ラベル尚
リーズ
け「S」
を実際に
詮訳した。
かに、大
見学終了後はバスで横
検査をこなしていく姿に
加者は目を見張っていた。
中華街に移動。辻谷社長
も加わり懇親会が行われ
苦労話や技術論、ものづ
り談義に花が咲き、和や
かに、大
が高速で
に親交を深めた。